

エネルギー

1. 評価対象企業（22社）

【石油・鉱業部門】（5社）

INPEX、石油資源開発、出光興産、ENEOSホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（17社）

岩谷産業（注）、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、
中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、電源開発、
イーレックス、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは20名（所属先17社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、ESG関連を中心に項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は61.3点（昨年度62.7点）、総合評価点の標準偏差は8.5点（昨年度8.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5社）が70.3点（昨年度72.4点）、電力・ガス部門（17社）が58.7点（昨年度59.7点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油73.5点（昨年度73.3点）、鉱業65.5点（昨年度71.2点）、ガス63.3点（昨年度68.1点）、電力56.8点（昨年度56.9点）となった。昨年度に比べ、鉱業およびガスの総合評価平均点が大きく下がった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が61%（昨年度63%）、説明会等が61%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが84%（昨年度同率）、ESG関連が59%（昨年度60%）、自主的情報開示が60%（昨年度61%）となった。

④ 評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、フェア・ディスクロージャーの 2 項目は平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

(a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」(平均得点率 92% [昨年度 98%]) (得点率(評価点/配点(以下省略)): 80%2社・90%14社・100%6社)

(b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会(説明会、決算説明会の資料・質疑応答等)を確保していますか」(平均得点率 82% [昨年度 81%]) (得点率: 70%台 5社・80%台 15社・90%台 2社)

⑤ 一方、次の、**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 32%となり、全項目の中で最も低くなった。一部の評価対象企業(東京瓦斯、関西電力、九州電力、東京電力ホールディングス、出光興産、中国電力、コスモエネルギーホールディングス)においては、社外取締役との対話が評価された。しかし、多くの企業は 10%台以下となっており、当該企業には改善を強く求めたい。

・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 32% [昨年度 20%]) (得点率: 10%未満 2社、10%台 12社・20%台 1社・50%台 1社・60%台 1社・70%台 3社・80%台 2社)

⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(a)および(b)は、本年度の新規項目である。

(a) 「非財務情報(気候変動問題等の環境分野)について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」(平均得点率 63%) (得点率: 40%台 2社・50%台 4社・60%台 11社・70%台 4社・80%台 1社)

(b) 「非財務情報(人的資本等の社会分野)について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」(平均得点率 63%) (得点率: 40%台 1社・50%台 1社・60%台 18社・70%台 2社)

(c) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」(平均得点率 56% [昨年度 61%]) (得点率: 30%台 3社・40%台 5社・50%台 5社・60%台 4社・70%台 4社・80%台 1社)

(d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」(平均得点率 53% [昨年度 54%]) (得点率: 30%台 1社・40%台 5社・50%台 9社・60%台 7社)

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 出光興産 (ディスクロージャー優良企業(初受賞)、

総合評価点 73.9 点 [昨年度比+1.8 点]、昨年度第 3 位)

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等** (77%)、**ESG 関連** (73%) が第 2 位、**自主的情報開示**が同得点第 3 位 (66%)、**説明会等**が第 4 位 (72%)、**フェア・ディスクロージャー**が第 19 位 (80%) となった。昨年度に比べ、**説明会等**および **ESG 関連**の得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」(第 5 位) および「IR 部門の機能」(第 8 位) は、昨年度に比べ得点率が下がったが、「経営陣の IR 姿勢」は得点率が改善し、第 4 位となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。これらに関連して、経営トップ、CFO、社外取締役がそれぞれ情報発信を行うなど IR に積極的であるとの声や、経営陣も IR 部門も市場の期待に応えようとする姿勢があるとの声が寄せられた。また、社外取締役も参加した ESG トップセミナーを評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に第 4 位となった。「説明資料等における開示」については、昨年度に比べ得点率が改善した。これらの結果、この分野において第 4 位(昨年度第 7 位)となった。これらに関連して、説明資料の内容は充実してきており、感応

度分析の拡充は有益であるとの声が寄せられた。なお、燃料油や石化の増減益のより詳細な分析の開示を求める声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第7位）が90%以上の得点率となった。「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」は同得点第18位にとどまった。これらに関連して、説明会動画・書き起こしにおいて質疑応答にアクセスできないことがあったとの声や、グループ会社に関する報道が開示に先行していることは今後の課題との声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第1位となり、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これらに関連して、ROE や株主還元目標の設定や、キャッシュフロー配分方針を評価する声が寄せられた。また、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」（2項目）については、人的資本等の社会分野の項目が第2位、気候変動問題等の環境分野の項目が第5位となった。これらに関連して、統合報告書の内容が充実しているとの声や、GHG プロトコルに沿った目標の設定を評価する声があった。また、ESG トップセミナーの開催を評価する声もあった。これらの結果、この分野において第2位（昨年度第5位）となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第3位となった。これに関連して、製油所のトランジションの取組みに関する見学会が有益であるとの声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日本瓦斯（総合評価点 73.7 点〔昨年度比-0.7 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等（82%）、自主的情報開示（74%）が第1位、経営陣の IR 姿勢等が第3位（75%）、ESG 関連が第6位（66%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位（84%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等および説明会等を除く3分野の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となり、「経営陣の IR 姿勢」も評価され、第2位となった。これらに関連して、他社と比べて経営方針や戦略、資本政策が明確との声や、CFO や IR 部門の姿勢を評価する声が寄せられた。なお、社外取締役と市場との対話を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となり、この分野において第1位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、説明資料等において、将来利益を予測する上で重要となる定量的な解説が充実しているとの声が寄せられた。また、最近受けた消費者庁からの行政処分に係る開示姿勢を評価する声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が共に同得点第7位となった。これらに関連して、質疑応答を含めた動画配信を評価する声があった。なお、説明会のスクリプトのウェブ掲載や電話会議の議事録の開示を望む声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第2位となった。これに関連して、株主還元方針が明確で、資本効率性目標設定も意欲的であると評価する声が寄せられた。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は昨年度に比べ得点率が下がり、同得点第4位（昨年度第1位）となった。「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」は2項目共に平均得点率に達しなかった。これらに関連して、CO2 削減目標の設定だけでなく、GHG プロトコルベースのものも併せて開示することを望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は最も高い評価となったが、昨年度に比べ得点率が下がった。これに関連して、事業説明会などが充実していると評価しつつ、事業戦略説明と決算説明は分けて実施することを望む声があった。

第3位 コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 73.6点〔昨年度比+1.6点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等が第2位（75%）、ESG関連が第3位（71%）、自主的情報開示が同得点第3位（66%）、経営陣のIR姿勢等が第4位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位（86%）となった。昨年度に比べ、ESG関連、自主的情報開示およびフェア・ディスクロージャーの3分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」が第2位、「経営陣のIR姿勢」が第5位となった。これらに関連して、IR部門のクオリティが高いとの声が寄せられた。「社外取締役との対話」（第7位）の得点率は大きく改善した。これに関連して、社外取締役との対話が有益であるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位となり、「説明資料等における開示」も同得点第2位となり、この分野において第2位（昨年度第3位）となった。これに関連して、現行の中期経営計画における定量的な開示を評価する声や、説明資料の内容が充実しており理解しやすい、取材時の補足説明も定量的で有益であるとの声が寄せられた。なお、石油事業の増減益のより詳細な分析の開示を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していること」が高く評価され、同得点第4位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第7位）も得点率が90%以上となり、その結果、この分野において同得点第5位（昨年度同得点第10位）となった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトの掲載を望む声があった。
- ⑤ ESG関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が最も高い評価となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、株主還元方針が明確であり、また、財務体質に応じて変化させていることを評価する声があった。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は同得点第4位となった。「非財務情報（ESG情報等）に関する開示」（2項目）については、人的資本等の社会分野の項目が同得点第3位、気候変動問題等の環境分野の項目が同得点第8位となった。これらに関連して、統合報告書の内容が充実しているとの声や、GHGプロトコルに沿った目標の設定を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第3位（昨年度同得点第9位）となった。これに関連して、風力事業の見学会など各種情報提供の機会が充実しているとの声が寄せられた。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

出光興産（総合評価点 73.9点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 73.7点、全体第2位）

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (エネルギー:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR専門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点35点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	73.9	26.8	2	14.4	4	4.0	19	25.4	2	3.3	3	3
2	8174 日本瓦斯	73.7	26.3	3	16.3	1	4.2	7	23.2	6	3.7	1	2
3	5021 コスモエネルギーホールディングス	73.6	26.2	4	14.9	2	4.3	5	24.9	3	3.3	3	4
4	5020 ENEOSホールディングス	73.0	24.9	5	14.5	3	4.3	5	26.0	1	3.3	3	1
5	9508 九州電力	71.6	27.3	1	12.5	13	4.6	2	23.8	5	3.4	2	7
6	1605 INPEX	68.2	22.9	7	13.9	6	4.2	7	24.1	4	3.1	9	6
7	9503 関西電力	66.2	24.9	5	13.1	9	4.2	7	20.9	11	3.1	9	10
8	9532 大阪瓦斯	65.0	22.3	9	13.4	7	4.2	7	21.8	7	3.3	3	8
9	9531 東京瓦斯	63.6	22.5	8	12.6	11	4.2	7	21.0	10	3.3	3	9
10	1662 石油資源開発	62.8	20.8	10	14.0	5	4.2	7	20.7	12	3.1	9	5
11	9513 電源開発	61.5	19.6	15	13.3	8	4.1	16	21.2	9	3.3	3	13
12	8088 岩谷産業	59.5	18.7	17	12.6	11	4.2	7	21.4	8	2.6	19	
13	9502 中部電力	59.4	20.0	13	11.9	14	4.2	7	20.5	13	2.8	15	14
14	9519 レノバ	56.2	19.8	14	13.1	9	4.8	1	15.6	21	2.9	14	12
15	9507 四国電力	55.7	18.6	18	10.2	16	4.4	3	20.2	14	2.3	22	16
16	9509 北海道電力	55.0	20.3	11	9.3	21	4.2	7	18.1	17	3.1	9	15
17	9533 東邦瓦斯	54.6	17.7	20	11.3	15	4.1	16	18.4	16	3.1	9	11
18	9506 東北電力	54.5	18.5	19	9.6	20	4.4	3	19.2	15	2.8	15	19
19	9504 中国電力	54.0	19.1	16	10.0	17	4.1	16	18.1	17	2.7	18	18
20	9501 東京電力ホールディングス	50.7	20.2	12	7.4	22	3.6	22	16.7	19	2.8	15	21
21	9505 北陸電力	49.1	16.7	22	10.0	17	3.9	20	16.0	20	2.5	20	20
22	9517 イーレックス	47.5	17.2	21	9.8	19	3.9	20	14.1	22	2.5	20	17
		61.34	21.43		12.19		4.20		20.51		3.01		
	評価対象企業評価平均点												

2023年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（電力・ガス部門）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ－		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目4 (配点 35点)	評価項目1 (配点 5点)	評価点	順位	評価点	順位	評価点	
1	8174 日本瓦斯	73.7	26.3	16.3	1	4.2	5	23.2	2	3.7	1	1	
2	9508 九州電力	71.6	27.3	12.5	8	4.6	2	23.8	1	3.4	2	2	
3	9503 関西電力	66.2	24.9	13.1	4	4.2	5	20.9	7	3.1	6	5	
4	9532 大阪瓦斯	65.0	22.3	13.4	2	4.2	5	21.8	3	3.3	3	3	
5	9531 東京瓦斯	63.6	22.5	12.6	6	4.2	5	21.0	6	3.3	3	4	
6	9513 電源開発	61.5	19.6	13.3	3	4.1	12	21.2	5	3.3	3	8	
7	8088 岩谷産業	59.5	18.7	12.6	6	4.2	5	21.4	4	2.6	14		
8	9502 中部電力	59.4	20.0	11.9	9	4.2	5	20.5	8	2.8	10	9	
9	9519 レノバ	56.2	19.8	13.1	4	4.8	1	15.6	16	2.9	9	7	
10	9507 四国電力	55.7	18.6	10.2	11	4.4	3	20.2	9	2.3	17	11	
11	9509 北海道電力	55.0	20.3	9.3	16	4.2	5	18.1	12	3.1	6	10	
12	9533 東邦瓦斯	54.6	17.7	11.3	10	4.1	12	18.4	11	3.1	6	6	
13	9506 東北電力	54.5	18.5	9.6	15	4.4	3	19.2	10	2.8	10	14	
14	9504 中国電力	54.0	19.1	10.0	12	4.1	12	18.1	12	2.7	13	13	
15	9501 東京電力ホールディングス	50.7	20.2	7.4	17	3.6	17	16.7	14	2.8	10	16	
16	9505 北陸電力	49.1	16.7	10.0	12	3.9	15	16.0	15	2.5	15	15	
17	9517 イーレックス	47.5	17.2	9.8	14	3.9	15	14.1	17	2.5	15	12	
	評価対象企業平均点	58.69	20.57	11.55		4.19		19.43		2.95			

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点 35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目2 (配点 20点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点 5点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目4 (配点 35点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点 5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	73.9	26.8	1	14.4	3	4.0	5	25.4	2	3.3	1	2
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	73.6	26.2	2	14.9	1	4.3	1	24.9	3	3.3	1	3
3	5020 ENEOSホールディングス	73.0	24.9	3	14.5	2	4.3	1	26.0	1	3.3	1	1
4	1605 INPEX	68.2	22.9	4	13.9	5	4.2	3	24.1	4	3.1	4	5
5	1662 石油資源開発	62.8	20.8	5	14.0	4	4.2	3	20.7	5	3.1	4	4
	評価対象企業評価平均点	70.30	24.32		14.34		4.20		24.22		3.22		

2023年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	1
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	10
②非財務情報（人的資本等の社会分野）について、統合報告書などで株式市場が求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	5
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部会長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	大島 彰雄	野村アセットマネジメント
	神近 広二	SMBC日興証券
	西川 周作	大和証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	野村証券

評価実施アナリスト（20名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFJ 証券
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
大野 高	三菱UFJ信託銀行	富田 展昭	極東証券経済研究所
大島 彰雄	野村アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
荻野 零児	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	野田 健介	ニッセイアセットマネジメント
神近 広二	SMBC日興証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	福元 千佳	JPモルガン証券
佐久間 聡	QUICK	松浦 勇佑	丸三証券
佐々木 聡	SOMPOアセットマネジメント	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
下森 浩	三菱UFJ信託銀行	山崎 慎一	野村証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。